

市政をお預かりして4年になりますが、その間、平成22年は市政刷新、平成23年は震災復旧、平成24年は復興元年、平成25年は協働互敬(共同互恵)と各年のスローガンを掲げ、まちづくりを進めてまいりました。平成24年に那須赤十字病院の開院、平成25年にトコトコ大田原の完成、中央多目的公園の開園、那須野が原ハーモニホールのパイプオルガン設置など各事業が完了いたしました。

そうした中、放射性物質の除染をはじめ震災復興も順調に進みましたことは、ひとえに市民の皆様のご理解とご協力の賜物と心から感謝を申し上げます。

本年は市制施行60周年、また市町村合併10周年目を迎える大きな節目の年であります。10年、50年後の将来を導き、更なる市民の皆様への幸せ感向上と大田原市の発展のため諸施策の充実

を図る行政の責任は、大きなものと考えております。

1 すべては子供たちの未来のために

子育て環境の充実はもちろん、出会い、結婚の支援

2 高齢者等生活弱者の皆様への安心と生きがいの持てる社会づくり

安心生活創造事業の充実

3 働く人が報われる社会をめざして

可処分所得の向上。生命、環境、情報産業の3本の柱をしっかりと支える

力強い産業の誘致、育成と雇用の促進を実現することを目標として再度スタートを図ります。

4 新たな地方自治を求めて自らの地域は自らの手で創る。八溝山周辺地域定住自立圏協定さら

に那須地域定住自立圏協定締結により、一層

の行政の効率化と地域資源を生かした産業育

成を進めます。

成を進めます。

キーワードは、財政、教育、ICT、食糧、健康、医療介護、歴史と伝統、観光、再生可能エネルギー、循環型社会。

自然環境、歴史風土を生かした地方型自治体を構築するなかで、郷土を愛し、誇れる人材の養成は喫緊の課題であります。その政策の一つとして、少子化に焦点を当てた出会いと結婚の支援が重要であり、都会にはない地方の良さを理解し、希望に満ちた人生の設計を描く多くの若人たちが住み、郷土愛に満ちた地域社会の構築こそが、わたしたち大田原市、ひいては那須地域の更なる発展と繁栄につながるものと信じます。

限られた財源を有効活用し行政サービスの更なる向上を実現する、知恵と愛のある行政運営を市民の皆様とともに進めてまいります。

大田原市長

津久井富雄

知恵と愛のある
共同互恵のまちづくりを目指して

